

# 消毒ハンドジェル需要拡大

## ピカソ美化学研究所社長語る

### 専用ライインフル稼働

### 新型コロナ対策品 スプレーや口腔用品も

化粧品OEM大手のピカソ美化学研究所(本社・兵庫県西宮市池田町)の八木伸夫社長は6月10日(水)、東京・銀座の東京オフィスにて本紙のインタビュに応じ、同社が現在フル稼働で生産している消毒用ハンドジェルや「アフターコロナ対策」としてすすめている商品開発動向を中心に、今後の展望や取り組みなどを縦横に語った(聞き手は小林本社長)。



代表取締役社長 八木伸夫氏

### 抗シワ化粧品を拡充

「弊社でも既報の通り(3月15日号に詳報)、貴社は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として指定医薬部外品の消毒用ハンドジェル製品をいち早く開発し、地元の西宮市や兵庫県

生産を素早く開始した。当社のジェルはアルコール64%、主剤殺菌剤が塩化ベンゼトニウムという処方方で、塩化ベンゼトニウムはNITE(ナイト・独立行政法人製品評価技術基盤機構)

によって新型コロナウイルスに有効であるとのエビデンスが示されている。現在OEM製品として消毒ジェルの受注が殺到しており、70社、1500万個を製造している」

「容器やアルコールが供給不足との声もあるが貴社の状況は。」

「消毒ジェルは現在国内工場(西宮、横浜)およびタイ工場に専用ラインを敷いて24時間フル稼働で生産を行っているが、当社では開発に着手した2月の時点で国内外の協力会社から容器調達を行い、アルコールも国内では一時タイトな時期もあったが、現在ではタイでの調達も含め安定した供給を受けている。」

「消毒ハンドジェル以外のコロナ対策品は。」

「手指以外にも使えるミストタイプ(スプレー)の消毒剤や、医薬部外品のハンドソープなども生産している。また、秋冬に向けて消毒効果のある指定医薬部外品のハンドクリームや、口腔内のウイルスを除去するという観点で、茶カテキンやアブドウ種子に含まれるプロアントシアニジンなど天然物の抗菌効果を活用したマウスウォッシュや歯磨



同社が生産する消毒ジェルのラインナップ

「化粧品の受注状況は。」

「現時点で当社の化粧品の受注状況は横ばいといったところだが、インバウンド需要がゼロになり、テレワークや外出自粛の影響で女性がメイクをする機会や美容サロンに行く回数も減ることなどから、これからは化粧品の受注は厳しい状況になっていくことが予想される。ただ、中国ではすでに化粧品の需要が回復しており、当社の上海工場の引き合いも増えてきている。日本でもある程度感染拡大が落ち着き、通常の生活に戻れば、ネット通販はもちろんのこと店取も含めて消費者の化粧品への購買意欲が早期に回復することを期待している」

「商品開発面での取り組みは。」

「秋冬に向けて、抗シワ化粧品のラインナップを拡充している。ナイアシナミド処方などの抗シワ化粧品だけでなく、美白化粧品も含めた医薬部外品の処方、すでに申請を済ませ形でのクライアントのニーズに

素早く対応する体制を整えている。メイク品に関してもマスクにつきにくいファンデーションなど市場の新しいニーズに対応した商品開発をすすめている。エビデンスの取れた機能性とビュアナチュラルなヴェイカー化粧品。この2つを柱とした化粧品開発に注力している」

「設備投資の計画は。」

「今回の消毒ハンドジェルで新規の取引先が増えたこともあり、引き続き需要が拡大すると思われるコロナ対策品の生産を継続して行えるよう、大型の製造機や充填機を各工場に随時導入している」

「最後に取引先や業界にPRしたいことがあればお願いします。」

「当社の技術力と生産力を活かし、新型コロナウイルスの感染拡大防止にこれからも出来る限り貢献していきたい。飲食店等の自粛により職を失った大学生などをアルバイトとして採用し、消毒ハンドジェルの製造現場で活躍してもらっている。新型コロナウイルスや経済状況など先行き予断は許さないが、当社としても社会にとって必要とされる付加価値のある製品を一つでも多く送り出していきたい」